

明治三十八年（一九〇五年）

七月十日

●瓊浦游泳協会の鼠島游泳場は目下脱衣場其他の設備中に付、開始の期は来る十一日ならん。而して同会本年事務所は本社（東洋日の出）内に設けあるに就き、同協会加入申込者同協会に所用ある人は本社へ来らる可し。

七月十六日

【広告】十八日、二十日も同じ広告あり。

◎鼠島游泳場開始◎

来ル二十日ヨリ開始ス

出島出船 午後一時

七月 金三十銭

八月 金七十銭

九月 金三十銭

瓊浦游泳協会

仮事務所 東洋日の出新聞社内

●本日の游泳会

瓊浦游泳協会にては既記の如く本日鼠島運動会に付午後一時出島より出船する由。因同游泳場もに來る二十日より愈よ開始の運びに至るべしと。別項広告を見よ。

七月二十日

●游泳協会発会式

瓊浦游泳協会の発会に係る港外鼠島の游泳会場にては、過日来より委員諸氏の奔走にて万般の設備も漸く整頓なし、明後日が発会式と云う。其日が近年になき大暴風雨にて別項の如く同游泳会場も非常の大打撃を蒙むりたれど、理事委員等の熱心なる*何じよう斯る事に屈すべき。今二十日の発会式は仮令不十分の嫌ありとは言え、是非共決行の筈にて昨日来東奔西走多忙を極め居れり。

何じようゝ 「どうしてゝか」

▲鼠島游泳場の被害

港外鼠島の瓊浦游泳会場も亦た非常の損害を蒙り、為めに万般の設備は滅茶々に破壊され望楼の如きは何所へ押流されしか影も形もなくなりたる由にて、昨日は理事委員総出にて復旧工事を急ぎ居れり。

七月二十二日

【広告】

◎鼠島游泳場開始◎

天気晴レ次第開始ス
出島出船 午後一時

会費

七月金三十銭
八月金七十銭
九月金三十銭

瓊浦游泳協会

仮事務所 東洋日の出新聞社内

七月二十三日

【広告】

◎鼠島游泳場開始◎

本日開會午後一時出島出船

瓊浦游泳協会

仮事務所 東洋日の出新聞社内

●游泳会発会式

本月二十日発会式挙行の筈なりし瓊浦游泳会は、十八日暴風雨の跡を受けて生憎の雨天なりしより中止となり、其後天候恢復次第開會すべき筈なりしなれど、連日の降雨続により本日まで延期に延期を重ね、諸子の遺憾をして深からしめたるが、理事委

員側に在つては、本日は日曜と云い少々々の降雨には頓着せず午後一時より会場なる鼠島に於て発会式丈は断然挙行すべき決心なりと。晴天なれば日曜なりお待兼の事と云い、定めて多数の人出ならんか。

七月二十四日

●昨日の発会式

既記の如く、瓊浦游泳会の発会式は昨日午後一時より会場なる鼠島に於て挙行されたり。当日は朝来天候險悪にて時々小雨を漏らし、天は意地悪く飽迄も游泳会に崇るが如く見たるも、會員の熱心は斯る天候にも頓着せず参合せし者実に三百余名の多数に達し、意想外なる盛況と壯觀を呈し無事発会の式を終たりと。

七月二十七日

●游泳師範増聘

瓊浦游泳会にては、去る二十三日の日曜を期し降雨中にも拘らず三百余名の熱心者を得て壯なる発会式を挙行せしが、其後連日不良の天候にも関せず斯道有志者は協会に迫つて強て出船せしむる程の勇氣なれば、理事委員側に在つても一層の熱心と奮発を加え有らゆる設備上遺憾なからしめ、各父兄の安心と信任を得んことに努め居れるが、猶従来の師範の外に今般新たに熊

本小堀流の達人町野晋吉氏を増聘なし師範助手各部署を定め各責任を帯びて同会場に臨むべしと言え、安心して此の愉快なる運動を試み心神の健全を計るべきなり。

七月三十日

【広告】

鼠島游泳場

本日は左ノ時刻ニ発船ス

出島発

午前十時
午後一時
午後三時

七月三十日

瓊浦游泳協会

八月一日

【広告】

鼠島行発船時刻

本日ヨリ左ノ時刻ニ出島ヲ出船ス

午後一時
午後三時

但シ日曜日ハ午前十一時
発船アリ

八月一日

瓊浦游泳協会

八月二日

▲佳賓一行と昨日の游泳協会

昨日午後六時、*佳賓を乗せたるマンヂユリヤ号は徐々出港し、港外鼠島附近に至るや、游泳中なりし瓊浦游泳協会員数百名は水中にて拍手喝采佳賓の万歳を叫びて歓送せしかは、タフト卿ローズベルト嬢一行六十余名は同号甲板に出で帽、手巾を振りて賞賛と決別との声を放ち、中には歓極りて雀躍するも見受けたり。游泳協会員も感極り情激し同船に尾して游泳せりしが、同船は非常の感懐を抱く六十二名を乗せ行き、感激の声を瓊浦の波に流して馬尼刺にぞ舵を進め行きぬ。*戦勝国未来の国民たる可き健児の活発なる夏季遊戯を目撃せる佳賓一行は、帰国の途再び此快壯の景状を見んと希うや必せり。

佳賓 良い客。珍しい客。

雀躍 小躍りして喜ぶこと。

戦勝国 この年日本は日露戦争に勝利。この時既にロシアはアメリカによる講和勧告を受け入れ講和交渉の準備段階であった。

【広告】

鼠島行発船時刻

本日ヨリ左ノ時刻ニ決定ス

出島発船

午前十一時
午後一時
午後三時

八月二日 瓊浦游泳協会

八月六日

【広告】

鼠島行汽船増発

自今午後五時出島ヲ発ス

八月六日 瓊浦游泳協会

八月十日

●游泳会員の遠泳

瓊浦游泳協会は、一昨年創設以来年々非常の盛況を告げたる事は既記の如くなるが、過般文部大臣より水泳奨励の訓令をもらひて、益々斯道の必要を感じ、本年は一千五百余の入会者を収容し、数人の師範其他助手に於て懇篤なる*誘掖をなしたる結果、非常に發達したるを以て甲組五十名を選抜し、来る十二日の土曜日に、鼠島より深堀村（距離十哩）へ遠泳を試すべしと。由来柔弱淫靡を以て聞えし当地に於て斯る破天荒の壮挙あるは実に祝すべき事なりとす。因に深堀遠泳の目的を達したる者には相当の賞品を授与すべしと言え、此挙を賛する市有志家諸氏は、遠泳者の技倆奨励の爲め相当の賞品を寄贈し以て一段の盛況あらしめよ。

誘掖 力を貸し導くこと。
柔弱淫靡 柔弱＝精神や体が弱い。淫靡＝節度がなくみだら。現在の長崎からは想像しにくいだが、当時の長崎は九州最大の都市であり徳川時代から人口流入も多く外国人も多かった。当時の長崎のイメージは現在私

たちが東京などの大都会に抱くイメージなのであろう。

八月十三日

◎瓊浦游泳会の十哩競泳状況 一

〓鼠島より深堀へ往復す〓

借も既記の如く瓊浦游泳協会にては、昨日選手健児数十名の深堀往復十哩競泳を為せしが、選手は同日午前十一時刻同会常設游泳場に参集し、指揮者の命に従うて出発点に列し、今や出発の合図遅しと待構えぬ。是より先、同協会にては競泳途中の警衛救助船の配置等、数日間来の準備整頓せし通知に接するや、師範諸員は先ず競泳者を一所に集団せしめ、競泳に対する心得を説示したる上、選手の体格及び体力を綿密に検査し夫々注意する所ありたりき。

昨日は朝来晴天にて微風ありしも、瓊浦の波穩に*馬蹄灣は全く一面碧鏡の如く、各選手は各自胸を躍らして泳路を思念して岸頭に佇み、同会員及び其遊覧者の数は万の上を越えて、長崎に於ける健児空前の快を見んは今か〜と唾を呑み拳を扼して待構えたり。

折から港務局、水上署、郵船・商船両社の*ランチは、鼠島附近を縦横に出没波を蹴りて何事にかは忙はし。其中には大浦外国商館のランチも煙を吐きつゝ、軽装の洋人を載せつゝ同島附近を徘徊せり。之前者は競泳の準備に奔走し、後者は昨日の快挙

を見んと集るなりき。其他*舢船、短艇を*艤して鼠島灣口に集えるもの無数。其何の為にかは記せざるも観覧の一隊なりしなり。総ての準備は為せり。総ての光景勇壮なる健児の出途を歓迎せり。時に合図船上一片の赤旗動くを見る。競泳指揮者は先ず裸体直投波を潜りて数分の後沖合十数間の点に浮出で、立泳に腰部以上を露わして、選手『水へ』と呼びぬ。号令を待ちし選手は列を正して海中に投せり。監督師範は選手の左右に序を正して之も海中にあり。救護船又其左右にあり。此間に指揮者指揮船上に、甲板に突立ち手を挙げて選手の体を見まもりぬ。選手は一斉に指揮に眼を注ぎ、観者は咸く選手の如何に斯くて動かざること数分時、期せざる拍手喝采は海の内外に起りたり。之レ選手の出途を祝するなりき。未だ号令なし。数秒時指揮船動揺し初めたり。赤旗一揺、素破ツ選手出途の命下らんとす。此赤旗は準備なりき。喝采又起りぬ。拍手も。次で万歳の声。声は天地を転倒せしめぬ。其間に指揮船上号令あり。赤旗動きぬ。数列鯨群迫るが如き競泳選手一隊は、拔手、蹴足、横突、各自得意の術にて……

万歳の声は鳴り止まず。(以下次号)

馬蹄灣 鼠島が浮かぶ木鉢、小瀬戸、神ノ島に囲まれた灣のこと。

ランチ 港内の移動に使う動力付きの小型船。主に人員の移動に使う物を言う。

舢 動力を持たない小型船。伝馬船やサンパンの類。

艤す 船の準備を整えること。船を用意すること。

八月十四日

◎瓊浦游泳会の十哩競泳状況 二

|| 鼠島より深堀へ往復す ||

鳴り止まぬ拍手喝采の声。続いて鬨、唳の音海に響き渡りたり。之レ同協会の壮拳を賛し健児の行を壮ならしめんと奮つて来りし市中樂隊の奏樂なり。

波躍り赤帽戴く健児の一隊!

先導者は誰ぞ、達磨顔に禅僧の、佛宿す笠野師範なり。次に游泳シャツ純白なるを纏い赤宝子点き蘭笠の赤リボンを頤に締め*緑髪を束子垂にせし妙齡花の如き女子三名。続くは男子組五十七名日焼け赭黒き肌膚を波間に出没せしむ。殿は一見朝鮮漁夫と見擬う池田師範なり。一隊の左右五間宛を離れて助教諸氏は一隊と並行に泳進し、樂隊を載せし指揮船は一隊の先頭に徐々と航路を取り、助教の左右に密接して進む救護船。先導笠野師範が汐吐く音シユ、続く健児がオイッシと応じ、池田師範はチュツチュツと励まし、助教諸氏は波を打てエイツエイツ、救護船は舷たゝいて進みぬ。

海の内外より轟く万歳の声! 健児一隊波を蹴ってぞ、目指すは深堀。途中の逆潮悪浪何のその、健児一隊は泳ぎ過ぐる所より拍手喝采に歓送歓迎され、深堀村に着せしは当日正午なりき。これはより先、本紙にて当日の壮拳を知りし長崎市人高橋某は、深堀沖に赤帽の鷗群の如く来るを見るや、直に遠泳隊響應の準備

に着手し、同隊の到着を待ちて歓待^{かんたい}至らざる無かりし。同隊は深堀^{ふかほり}豪家^{ごうか}深町^{ふかまち}金八^{かねはち}氏の厚意^{こうい}を受け、同家^{どうか}にて休憩^{きゅうけい}昼食^{ちゆうしょく}を為し、同日午後一時半同村を出発し、又も海上を泳ぎて鼠島^{ねずじま}に着せしは同日午後五時なりき。

健児隊^{けんぎだいて}帰着^{ききやく}すれば、海の内外より起れる歓迎^{かんげい}の拍手喝采^{はくしやくさい}は出発当時と等しかりし。

池田師範^{いけだしはん}は出発当時と等しく、健児一隊^{けんぎいちだいて}に対して一場^{いちじやう}の祝意^{しゆい}を述べて当日の壮挙^{じやうこ}を評し、今後の教訓^{けうくん}を与えたり。此所^{こゝ}に殊^{こと}に特筆^{とくへき}す可きは、遠泳^{えんえい}の女子三名^{じよしさんめい}が、男子選手^{なんしせんしゆ}一般^{いぱん}が疲労^{ひろう}の体^{てい}に見えしに拘らず^{かかわ}、毫も疲労^{ごう}の状^{じやう}に見えざりしのみならず、先頭^{せんとう}に進みて寸も追われざりしは何とも評語^{へいご}なし。左に当日遠泳^{えんえい}せし健児^{けんぎ}の氏名^{しめい}を列記^{れつき}せむ。

○拾漚^{しゆしゆ}往復^{わうふく}者^{しや}男子

- 朝倉 健 柴田 正二 山本富太郎 陳 慶 亨
沼川 壱助 鈴木 襄 春野 毅 塚原喜代治
手島 清香 岸川兼太郎 田中喜三郎 田中 惠吉
山田想一郎 松尾 茂 山口 金次 井上松之助
三好 新八 猪口 正玄 山本 猛
○全 女 子
今村サイ子 田中スガ子 田中タキ子
○往 五 漚
杉山 俊夫 堀見 東一 岡 貫之助 山本 泰時

松本 富治

○復 五 漚

溝口 憲二 後藤 雅雄 石尾 保治 澤山 一松
清水善太郎 松本 源治 谷川 慶次 高見 昇

莊野 壤一 小西巳代治 以上

吾等は此空前^{この}の壮挙^{じやうこ}を祝すると共に、今後益々^{ますます}健児諸君^{けんぎしよ}が奮励^{ふんれい}斯道^{しどう}に尽して海国民^{かいこくじん}人の英氣^{えいぎ}を煥發^{かんぱつ}されんことを希^{こいねが}うものなり。(完)

喇叭 樂器の音がよく響くさま。

蘭笠 草で作った笠。

頤 頤。

緑髪 緑の黒髪。美しい黒髪のこと。



八月十七日

●大連の游泳会

過日の本紙にも、当市出身某将校^{ぼうしやう}より、游泳の要満州^{ようまんしゆう}に起り目下^{もつか}修練中、との来状^{らいじやう}に接し掲載し置きしが、今又大連守備隊^{だいいん}にても游泳術の軽忽^{けいこつ}に附すべからざるを悟り、隊長以下各将校部下^{さうご}を奨励して一つの游泳会^{えいえいかい}を起し、師範には例の今実盛^{いまじまもり}と謳^{うた}われ瓊浦游泳協会^{しんえん}とは深縁^{しんえん}ある高柳老大尉^{たかやなぎ}を始め、其外^{そのほか}二二名^{ににめい}に依嘱^{いぞく}なし、猶お各中隊^なよりも斯道^{しどう}の心得^{しんえい}ある下士四名^{しよしなめい}宛^{づつ}を選抜^{せんたく}して助手^{すけ}に宛て、本月八日同地に於て盛んなる発会式^{はつかいしき}を挙げたり。組織^{そくせい}は総て瓊浦游泳協会^{しんえん}同様^{どうじやう}にて帽子^{ぼうし}を以て甲乙丙^{めつへい}を分ち、甲

組赤、乙組赤白、丙白等なるが、其他軍属連の入会者も多く、日々盛大に趣きつゝありとの通信ありたり。

大連 中国東北部の都市。ロシアの支配地域だったが日露戦争開戦後日本軍が無血入城し守備隊が駐屯していた。

実盛 斉藤実盛。平安時代末期の武将。武士の鑑とされる。

軍属 軍人ではないが軍の機能を維持するために必要な様々な仕事をする民間人のこと。事務的な仕事から建設、売店経営など多岐にわたる。

八月十九日

●鼠島の競泳大会

深堀遠泳に成効なしたる瓊浦游泳協会にては明二十日の日曜を期し、午前九時より会場なる鼠島に於て全会員の競泳大会を行う筈なれば、定めて勇壮至極のこととなるべし。今左に来観者の為め当日の番組と時間を掲げ置くべし。

五十ヤード	丁組	午前九時
百五十ヤード	丙組	同九時半
二百二十ヤード	乙組	同十時半
百五十ヤード	女子部丙組	同十一時
四百四十ヤード	甲組	同十一時半
二百二十ヤード	女子部乙組	午後一時
八百八十ヤード	選手	同二時
二百二十ヤード	来賓	同二時半
障害物競泳	同三時	

分裂式游泳 甲組 同三時半

右終つて賞品授与式あり。式後の余興として女子部及び男子部甲組の水芸各一回あり。次に*源平西瓜取り、男子部甲組の*打球、城責ありて、最後に各師範の模範游泳等ありと言へばの盛會なるべし。

源平西瓜取り 二組に分かれて水中で西瓜を奪い合う。西瓜は水に浮くがある程度は沈めることもできる所がゲームを面白くする。

打球 水球のこと。西アジアを起源とする馬に乗って杖で球を打つ遊技が東アジアに伝わり『打毬(だきゅう)』となり、ヨーロッパに伝わり『ポロ』となった。水球はウオーター・ポロであることから日本でポロにあたる打毬(球)をあてたと思われる。

八月二十日

【広告】

大競泳会

本日挙行ス

出島第一発船午前九時

熊本より猿木先生本日来場ス

八月廿日 瓊浦游泳協会

●猿木流の達人来崎

日本にても有名なる熊本猿木流游泳の大達人たる猿木師範は今般瓊浦游泳協会よりの招聘に応じ、斯道奨励の為め態々本日本熊本より来崎なし、直ちに鼠島なる同会員の競泳大会に臨んで

游泳に関する講話及び模範游泳等あるべしと謂えば、本日の競泳大会は一段の花を添え定めし盛会の事なるべし。

八月二十二日

【投書】

▼女子三名が深堀遠泳に成功したとて式部連は近頃投書欄にまで恐ろしく気焰を吐出した。是だから*女子と小人は養い難しの金言亦た宜なるかなと言いたくなる。(鶴老)

▼過日深堀へ遠泳されたる女子三名の内一名僕の妻に周旋する人はなきや。(廿五男)

女子と小人は養い難し「女性と徳のない人間とは、近づけると凶に乗るし遠ざければ怨むので扱いにくいものである。」元は『論語』の一節。今なら大炎上の投書である。

八月二十三日

◎雨中の大壮観!!

|| 第二回の深堀遠泳 ||

第一回の深堀遠泳に予想外の成效なしたる瓊浦游泳協会にては、一昨日の雨中にも拘わらず会員の熱心は監督師範等を*懲憑して終に第二回の深堀遠泳往復を執行せしめたり。救護船其他万般の準備惣て前回通りにして教師笠野、町野、内海、八田及び助手四名監督の下に午前十時十五分、濛々たる雨中を物ともせず遠泳者総数五十七名(男女共)が隊伍を整え波濤を蹴り抜手

を切つて泳ぎ出したる有様は、前回到勝りし大壮観にして思わず快哉を唱えられたり。斯て首尾よく雨を衝き対岸深堀に泳ぎ着きたるは午後二時にして、五十七名の内二十六名(内女子一名)なりたり。同所にては、前回にも幹旋の労を執られし同村有志深町金八、高橋治吉両氏の宅にて、又々非常の歓待を蒙むり、昼餐休憩の後午後四時五十七名中の一粒選り二十一名(女子一名復泳にのみ加入す)は奮勇一番海に投じ、懸声勇ましく帰島の途に就きたる時には、海面漸やく荒初めんとして、遊泳者の困難一方ならざるよう見受けられしも、暮色蒼然たる七時過ぎに無事深堀遠泳往復に成效なし、鼠島に帰着したる健児は惣て二十名にして、真に雨中の大壮観を極めたり。往復遠泳者の氏名年齢は左の如し。

◎男子往復者

松本 源治 (十四)	森山 清一 (十三)
若杉 茂雄 (十五)	高 見 昇 (十三)
佐々木 夫 (十六)	澤山 市松 (十三)
木村 克巳 (十六)	信原 龍夫 (十三)
宮田 四郎 (十六)	米村 義憲 (十二)
薄井 数馬 (十五)	清水善太郎 (十四)
内村盛太郎 (十七)	松尾 孫次 (十四)
合田 太一 (十八)	荒木 道義 (十四)
田中 謙吉 (十八)	萩野 亨一 (十四)

溝口 憲二(十五)

◎女子往復者

今村 レン(十二)

◎男子往泳者

笠野 熊雄(十三)

赤瀬慶一郎(十五)

小 森 保(十四)

石 井 環(十五)

河口澄次郎(十四)

◎女子復泳者

徳永 ツル(十三)

因に女子部の今村レン子が、僅か十二の少齡にも拘わらず他の男子と伍し、雨中を侵して躍進したる熟練と勇氣とは、見る者をして思わず感嘆の辞を放たしめたりと。協会が着々成功の実果を納めつゝあるは喜ぶべし。是も畢竟師範役員諸氏が指導宜しきを得たるの結果ならんか。

愆憑 そうするようになさそつて、さかんに勧めること。
濛々 霧、煙、ほこりなどが立ちこめるさま。

八月二十六日

◎鼠島競泳大会

去る二十日の日曜に開催の筈なりし鼠島大競泳会は、生憎の雨天にてお流れとなりしが、明廿七日(日曜)更に盛大なる大競泳会を挙行する由にて、協会にては競争者への賞品其他諸般の

準備に多忙を極め居れり。因に、日本一とも称せられし斯道の大達人熊本猿木氏は、前回都合に依り来崎なかりしが、目下帰県中の内海師範同伴愈々来崎する由なれば、一段の盛会なるべし。

【広告】

大競泳会

去ル二十日ノ大会ハ雨天ノ為メ延期セシ処

明廿七日(日曜) 挙行ス

但雨天順延ノ一

瓊浦游泳協会

八月二十七日

【広告】

本日ハ第一発船午前八時

以下定例

八月廿七日 瓊浦游泳協会

●競泳大会と余興

再三本紙上に既記を経たる瓊浦游泳協会の競泳大会は、本日午前九時より会場なる鼠島に於て盛大に挙行さるゝ筈なるが、熊本小堀流の達人猿木氏も愈々内海師範と同伴来崎さるゝ事と決したれば、一層の盛会を呈せんなり。猶お本日中の見物として、

会員の熟練と技倆を發揮すべきは余興の部なるべく、水芸、源平西瓜取り、打球、城責等、孰れも看衆の喝采を博するに足らんが、殊に水中にての銃砲射的こそ嘆賞に値いし眼を驚かす物あるべしと云う。冀くば本日の競泳大会をして雨なからしめよ。

八月二十九日

●一昨日の鼠島競泳大会

雨続きの為め遺憾を忍びて延期に延期を重ね居りたる瓊浦游泳協会。一昨日の鼠島競泳大会は朝来久し振りの快晴の上日に曜日とて、午前八時の出船より毎船殆んど人の小山を築きて鼠島に送られたり。競泳大会は午前九時より師範助手等が注意周到なる監督の下に勇壮に活発 開始せられ、毎回海若をも驚かす数万看衆が歡呼喝采の聲に送られて無事終了したるが、余興の西瓜取り、水中射的などは最も看衆をよろこばせ、亦た其熟練の程に驚嘆せしめたり。優勝者には夫々賞品授与ありて、薄暮散会したるが、当日全島は殆んど参観者を以て埋められたる如き近來の盛会なりし。当日競泳者の氏名は左の如し。

△男子丙組第一回百ヤード

第一着信原、第二着頓田、第三着水田、第四着永尾、第五着吉原

△同 第二回

第一着松本徳三、第二着鈴木武次、第三着山口誠一、第四着小川瀧一、第五着中川

△女子丙組百ヤード

第一着加悦チヨ、第二着今村、第三着松下カメ、第四着吉田ミヨ、第五着田中

△男子乙組第一回二百二十ヤード

第一着若林、第二着加藤、第三着今村、第四着江崎、第五着篠井

△同 第二回

第一着涌井、第二着神崎梧楼、第三着早稲、第四着内田、第五着村里

△同 第三回

第一着河野文三、第二着永富、第三着高田昇一、第四着山田福次、第五着松村友雄

△同選手競泳

第一着河野文三、第二着神崎梧楼、第三着山田福次、第四着早稲、第五着加藤

△女子甲組二百二十ヤード

第一着今村レン、第二着本田フミ、第三着岩田サク、第四着徳永ツル、第五着大坪ミサオ

△男子甲組第二回（木鉢より鼠島迄）

第一着（九分四十秒）清水善太郎、第二着田中恵吉、第三着信

原武雄、第四着石尾安治、第五着（十分卅秒大場恒男

△同 第二回

第一着（九分）薄井数馬、第二着手島清香、第三着陳慶亨、第四着柴田正次、第五着合田太市

△同選手競泳三百ヤード

第一着薄井数馬、第二着手島清香、第三着合田太市、第四着陳慶亨、第五着柴田正次

△障碍物競泳（甲組）

第一着田中、第二着古賀梅次郎、第三着塚原喜代治、第四着溝口憲治、第五着佐々木

●游泳会女子部の名譽

旅順閉塞の花と散り、世に軍神と謳われたる広瀬中佐の兄君として軍艦浪速に長たる海軍大佐広瀬勝比古氏は、我が瓊浦游泳協会によりて盛大に海事思想を鼓吹され、由来柔弱を以て知られたる長崎青年子女をして猛然起つて深堀十哩遠泳に成功せしめたる如き、一に游泳会の力なるを多とされ、常に称賛され居たる趣なりしが、一昨日の鼠島競泳大会にて、特に女子部員が男子を凌ぐの勇氣と熟練とを実見して痛く感服され、女子にして斯迄游泳に発達せし所は日本全国恐らく長崎一ヶ所なるべしとまで激賞され、昨日は態々使を以て遠泳及び競泳者の選手たる今村サイ、今村レン、田中スガ、田中タキ、小林フジ、本

田フミ、西郷ミ子、徳永ツルの八女子を招待されたれば、師範池田正誠氏引率して同艦に到りたるに、広瀬艦長は懽然として女子一行を迎えて談笑の内に奨励的の注意を与えらるる所あり。後手厚き響応を受け引取りたりと実に八女子の名譽と謂うべし。

広瀬中佐 旅順港閉塞作戦で敵艦の魚雷を受け沈没しつつある艦に部下を助けに戻り戦死。

九月一日

【廣告】

自今出島発船ヲ左ノ通相定候也

午後一時、同三時

九月一日

瓊浦游泳協会

九月三日

【廣告】

自今出島発船ヲ左ノ通相定候也

午後一時、同三時

九月一日

瓊浦游泳協会

九月四日

【広告】

大競泳会延期

昨三日ハ午前ノ天候不穩ノ虞レアリタル為メ中止セリ
本日ハ雨天ニ不拘挙行ス

猿木先生愈来場シ模範的游泳術ヲ示サル、ニ付会員諸君奮テ来場アレ

九月四日 瓊浦游泳協会

九月五日

【広告】

会員諸君へ告グ

来崎中ノ猿木先生郷里熊本ヨリ電報ニ接シタル為メ俄然三日夜半ニ汽車ニテ急行帰県セラレタルニ付模範游泳ノ義ハ午遺憾次回ノ大競泳会ニ延期ス

九月四日 瓊浦游泳協会

九月十日

【広告】

会員諸君へ告グ

本日大游泳会ヲ挙行ス

其他技芸游泳數番アリ

猿木先生ハ予告ノ通り本日挙行ノ大会ニ於テ模範游泳ヲ示サル為メ昨日来着上野屋ニ投宿セリ
本日ノ出島発船ハ午前九時以下従前ノ通り

午前十一時

九月十日 瓊浦游泳協会

九月十二日

● 一昨日の游泳大会

一昨日鼠島瓊浦游泳協会游泳場に於て同会競泳大会を挙行せり。
当日は日曜日なりし上朝来よりの晴天なりしを以て、来会者非常に多く殆んど一千名に達したり。当日競泳番組左の如し。

- 一丁組五十ヤード一回、一丙組百ヤード一回、一乙組二百ヤード一回、一甲組八百ヤード二回、一乙組平游競泳女子部一回、一拔手競泳二回、一二人三脚競泳一回、一障物同二回、一女子部日傘行列、

甲組芸泳、一立泳ギ、一御前泳ギ、一水書、一浮身、一発銃
右終りて師範諸氏の模範游泳及ビ猿木大家の浮身水書等ありて
夕暮散会せり。

九月十七日

【広告】

游泳大会

●本日は各会員熟達の芸泳を試み盛大なる游泳会を催すに付会員諸君奮て来会あれ

一日限りの会費は自今拾銭とす

本日第一出島出船午前十一時

●来る二十日を以て閉会す

九月十七日 瓊浦游泳協会

●本日の競泳大会

瓊浦游泳協会にては来る二十日を以て愈々本年度の閉会日とする筈なれば、本日の日曜を期し午前十一時より鼠島に於て会員

全般の最も盛大なる競泳大会を催うし、其外種々水中の余興等

多き趣なりと云えば、本年最終の競泳大会と云い*旁々本日は

非常の盛況を呈すべき也。

旁々 いずれにせよ。どのみち